



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会 2012年（平成24年）7月15日号 No. 1567

目次

■ ロシアの最新の地域総生産	1
—サハリン州が最も「豊か」という逆説—	
■ 統計速報	13
ロシアの第1四半期GDPは4.9%成長／13	
■ トピックス	13
三菱自とPSA、ロシア工場で本格生産開始／13	
ロシア下院がWTO加盟を批准／14	
■ キーパーソン	14
グルジア首相交代 —内務大臣から首相へ／14	

ロシアの最新の地域総生産 —サハリン州が最も「豊か」という逆説—

はじめに

ロシア連邦国家統計局は先頃、2010年の同国の地域総生産の統計を発表した。地域総生産は国内総生産（GDP）を地域別に（州などのレベル）ブレイクダウンしたものだが、GDPよりも発表が遅いので、このほどようやく2010年の数字が発表されたというわけである。そこで今回の速報では、この最新のロシアの地域総生産を図表にまとめて紹介することにする。

その際に、注目されるのは、2010年に住民1人当たりの地域総生産という指標で、極東のサハリン州が初めてトップに立ったことだ。言ってみれば、公式統計上は、サハリン州がロシアで最も「豊か」な地域に躍り出たわけである。同州は何かと日本と縁のある地域であるだけに（北方領土もロシアの行政区分によればサハリン州所属とされている）、「サハリン州はロシアで一番豊かな地域」という事実を、頭の片隅に入れておいても損はないかもしれない。しかし、そこには大いなる逆説が見て取れ、以下ではその問題についても言及してみたい。